



令和5年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

令和5年2月13日

上場会社名 株式会社 御園座 上場取引所 名
 コード番号 9664 URL http://www.misonoza.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)宮崎 敏明
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員総務経理部長 (氏名)島田 治彦 (TEL) 052 (222)8202
 四半期報告書提出予定日 令和5年2月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 令和5年3月期第3四半期の業績(令和4年4月1日～令和4年12月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
5年3月期第3四半期	1,930	19.6	△28	—	△47	—	△124	—
4年3月期第3四半期	1,613	182.1	△357	—	△363	—	83	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
5年3月期第3四半期	△25.03	—
4年3月期第3四半期	16.85	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
5年3月期第3四半期	5,993	4,318	72.1
4年3月期	6,277	4,440	70.7

(参考) 自己資本 5年3月期第3四半期 4,318百万円 4年3月期 4,440百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
4年3月期	—	—	—	0.00	0.00
5年3月期	—	—	—	—	—
5年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 令和5年3月期の業績予想(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,520	22.8	130	—	120	—	100	△68.9	20.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

5年3月期3Q	4,984,500株	4年3月期	4,984,500株
5年3月期3Q	5,194株	4年3月期	5,194株
5年3月期3Q	4,979,306株	4年3月期3Q	4,979,360株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
3. その他	9
継続企業の前提に関する重要事象等	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、景気及び個人消費は緩やかに持ち直しの動きがみられる状況で推移いたしました。

当社におきましては、徹底した感染拡大予防対策を実施し、座席数の制限や客席・ロビーでの食事の禁止などの対策を継続し、お客様と公演関係者の安心・安全を最優先に考え、安心してご来場いただけるよう努め、その中で引き続きお客様の嗜好に合わせた公演の実現、観客動員の維持も図りながら、注意深く上演していくことが課題となりました。6月の舞台『千と千尋の神隠し』の一部公演中止や7月の『山里亮太の140愛知公演』の中止、12月の『エリザベート』の一部公演中止を除く、大半の公演を上演することができました。

今後につきましても、引き続き感染拡大の防止策を徹底し、社会経済活動のレベルが段階的に回復する中、徐々に公演数及び観客動員の拡大を図りながら、お客様に喜んで頂ける公演を増加させていく予定であります。

当社は、以下の通り、令和4年4月から12月までに公演を24種類、上演日数として142日間、上演回数として190回（前年同期197回）の実施を致しました。

<当第3四半期累計期間の上演実施作品>

公演名	上演期間	上演日数	上演回数
陽春花形歌舞伎	4月15日～24日	10	18
坂東玉三郎コンサート	5月7日～8日	2	2
北島三郎 御園座ファイナルコンサート	5月13日～15日	3	3
漫才サミットin名古屋	5月22日	1	1
坂東玉三郎 特別舞踊公演	5月27日～29日	3	3
ミュージカル『四月は君の嘘』	6月9日～12日	4	5
舞台『千と千尋の神隠し』	6月22日～7月4日	5	5
梅沢富美男・研ナオコ特別公演	7月9日～17日	9	13
山内恵介 惠音楽会2022	7月23日～24日	2	3
よしもと祭り10公演	7月26日～31日	6	10
夏休み！！！！吉本新喜劇&バラエティ公演	8月2日～7日	6	11
超歌舞伎2022 Powered by NTT	8月13日～16日	4	8
ミュージカル『流星の音色』	8月21日～28日	8	10
氷川きよし特別公演	9月5日～15日	11	15
鶴瓶御園座独演会	9月17日～18日	2	2
舟木一夫御園座特別コンサート2022	9月22日～23日	2	2
坂東玉三郎特別公演	10月1日～23日	23	21
少年たち あの空を見上げて	10月28日～11月6日	10	15
神田伯山独演会 御園座	11月8日	1	1
ミュージカル『ヘアスプレー』	11月12日～20日	9	12
年末恒例大爆笑大会『よしもと爆笑公演』	11月22日～27日	6	11
ミュージカル『エリザベート』	12月5日～17日	13	17
加藤登紀子ほろ酔いコンサート2022	12月24日	1	1
稲垣潤一コンサート2022	12月25日	1	1
合計		142	190

（上演日数には休演日も含みます）

〈公演中止となった当第3四半期累計期間の上演予定作品〉

公演名	上演予定期間	上演予定日数	上演予定回数
舞台『千と千尋の神隠し』	6月25日～7月3日	8	12
山里亮太の140愛知公演	7月29日	1	1
ミュージカル『エリザベート』	12月18日～12月21日	4	5
合計		13	18

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は、19億3千万円（前年同期は16億1千3百万円）となりました。利益面では、営業損失2千8百万円（前年同期は営業損失3億5千7百万円）、経常損失4千7百万円（前年同期は経常損失3億6千3百万円）、四半期純損失1億2千4百万円（前年同期は四半期純利益8千3百万円）となりました。

なお、当第3四半期累計期間に予定していた当社主催の演劇公演を6月及び7月に一部中止、また12月にも一部中止といたしました。このため当該公演にかかる制作費・キャンセル料等を公演中止損失及び臨時休業等による損失として特別損失に計上しております。

当社の報告セグメントは劇場事業の単一セグメントでありますので、セグメント別の記載は省略しております。

（2）財政状態に関する説明

（1）資産・負債及び純資産の状況

①資産の部

当第3四半期会計期間末における流動資産の残高は、7億9千2百万円となり、前事業年度末に比べ9千6百万円の減少となりました。この主な要因は、現金及び預金が1億4百万円、売掛金が6千2百万円増加、未収入金が2億6千1百万円減少したことによるものであります。固定資産の残高は、52億円となり、前事業年度末に比べ1億8千7百万円の減少となりました。この主な要因は、建物及び構築物が9千万円、機械及び装置が6千8百万円減少したことによるものであります。この結果、総資産は、59億9千3百万円となり、前事業年度末に比べ2億8千4百万円の減少となりました。

②負債の部

当第3四半期会計期間末における流動負債の残高は、5億6千2百万円となり、前事業年度末に比べ2千4百万円の増加となりました。この主な要因は、買掛金が3千万円、未払金が8千7百万円増加、未払法人税等が7千7百万円、前受金が3千7百万円減少したことによるものであります。固定負債の残高は、11億1千2百万円となり、前事業年度末に比べ1億8千5百万円の減少となりました。この主な要因は、長期借入金が1億7千2百万円減少したことによるものであります。この結果、負債合計は、16億7千4百万円となり、前事業年度末に比べ1億6千1百万円の減少となりました。

③純資産の部

当第3四半期会計期間末における純資産の残高は、43億1千8百万円となり、前事業年度末に比べ1億2千2百万円の減少となりました。この主な要因は、利益剰余金が1億2千4百万円減少したことによるものであります。

（2）優先的に対処すべき事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社が優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

（3）研究開発活動

該当事項はありません。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

令和5年3月期の業績予想につきましては、当第3四半期累計期間の業績及び今後の見通しを検討した結果、現時点において令和4年5月13日付「令和4年3月期決算短信」にて発表いたしました業績予想からの変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (令和4年3月31日)	当第3四半期会計期間 (令和4年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	438,007	542,345
売掛金	96,200	158,250
貯蔵品	5,264	1,422
未収入金	320,468	58,822
その他	29,320	31,908
流動資産合計	889,260	792,748
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,455,593	2,365,079
機械及び装置（純額）	630,009	561,767
土地	2,124,656	2,124,656
その他	105,699	84,278
有形固定資産合計	5,315,958	5,135,782
無形固定資産		
	21,972	14,590
投資その他の資産		
投資有価証券	41,843	44,137
その他	9,022	6,656
貸倒引当金	△739	△739
投資その他の資産合計	50,126	50,055
固定資産合計	5,388,057	5,200,428
資産合計	6,277,318	5,993,177

(単位：千円)

	前事業年度 (令和4年3月31日)	当第3四半期会計期間 (令和4年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	50,223	80,561
1年内返済予定の長期借入金	229,988	229,988
未払金	19,024	106,394
未払法人税等	77,122	—
前受金	147,511	109,710
その他	14,492	35,890
流動負債合計	538,362	562,544
固定負債		
長期借入金	1,024,181	851,690
繰延税金負債	251,322	244,190
退職給付引当金	4,812	5,016
その他	17,718	11,138
固定負債合計	1,298,034	1,112,035
負債合計	1,836,397	1,674,579
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,271,937	2,271,937
資本剰余金	2,137,621	2,137,621
利益剰余金	60,016	△64,601
自己株式	△39,817	△39,817
株主資本合計	4,429,758	4,305,140
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	11,163	13,457
評価・換算差額等合計	11,163	13,457
純資産合計	4,440,921	4,318,597
負債純資産合計	6,277,318	5,993,177

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 令和3年4月1日 至 令和3年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 令和4年4月1日 至 令和4年12月31日)
売上高	1,613,467	1,930,512
売上原価	1,519,934	1,500,318
売上総利益	93,533	430,194
販売費及び一般管理費	451,361	458,469
営業損失(△)	△357,828	△28,274
営業外収益		
受取配当金	1,297	1,377
保険返戻金	2,502	—
その他	5,084	1,632
営業外収益合計	8,885	3,009
営業外費用		
支払利息	13,678	10,273
支払手数料	—	10,500
その他	1,225	1,164
営業外費用合計	14,903	21,938
経常損失(△)	△363,846	△47,203
特別利益		
補助金収入	568,848	—
特別利益合計	568,848	—
特別損失		
公演中止損失	74,038	56,398
臨時休業等による損失	31,806	27,415
投資有価証券評価損	363	—
特別損失合計	106,208	83,813
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	98,793	△131,017
法人税、住民税及び事業税	14,892	732
法人税等調整額	—	△7,132
法人税等合計	14,892	△6,399
四半期純利益又は四半期純損失(△)	83,900	△124,617

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収束しなかったものの、当社は感染対策の徹底を図り、6月の舞台『千と千尋の神隠し』の一部公演中止や7月の『山里亮太の140愛知公演』の中止、12月の『エリザベート』の一部公演中止を除く、当第3四半期累計期間において予定していた大半の公演を上演することが出来ました。これにより、当第3四半期累計期間の売上高は19億3千万円と前年同期を上回りました。しかしながら当第3四半期累計期間においても営業損失を計上したことで、連続赤字となっており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が続いております。

このような状況の中、予定されている公演についても、引き続き感染対策を十分に行ったうえで継続しております。また、当第3四半期会計期間末の現金及び預金の残高に加え、資金計画に基づき取引金融機関と協議を行い、適切に運転資金を確保する計画を実行しており、当該事象の解消が十分実現できるものと考えております。

以上の通り、重要事象等の解消は可能と考えており、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断し、「継続企業の前提に関する注記」は記載しておりません。